爲永春水綴　三馬舎主人画

新編

酒乃末期

さけのまき

補

加賀屋彦板

才十九編

へ13
3086
10

新増補西國奇談

上

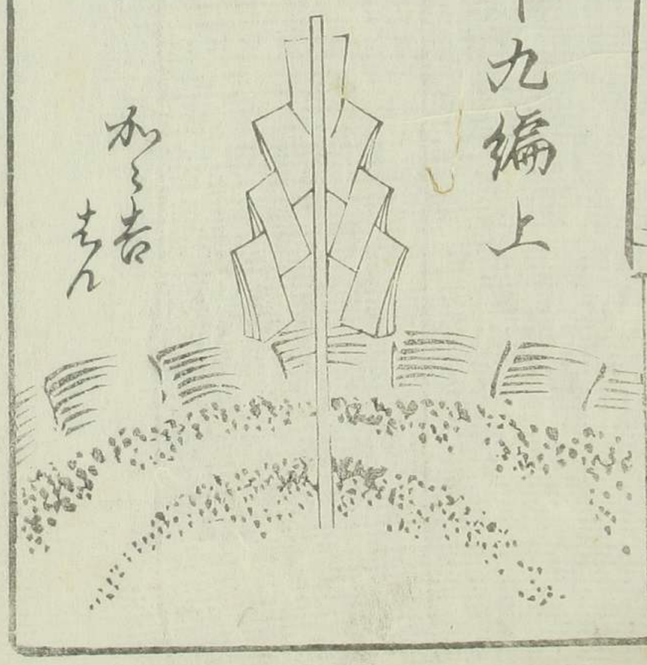
特
へ13
3086
10

新增補　十九編上

西國奇談

爲永春水作

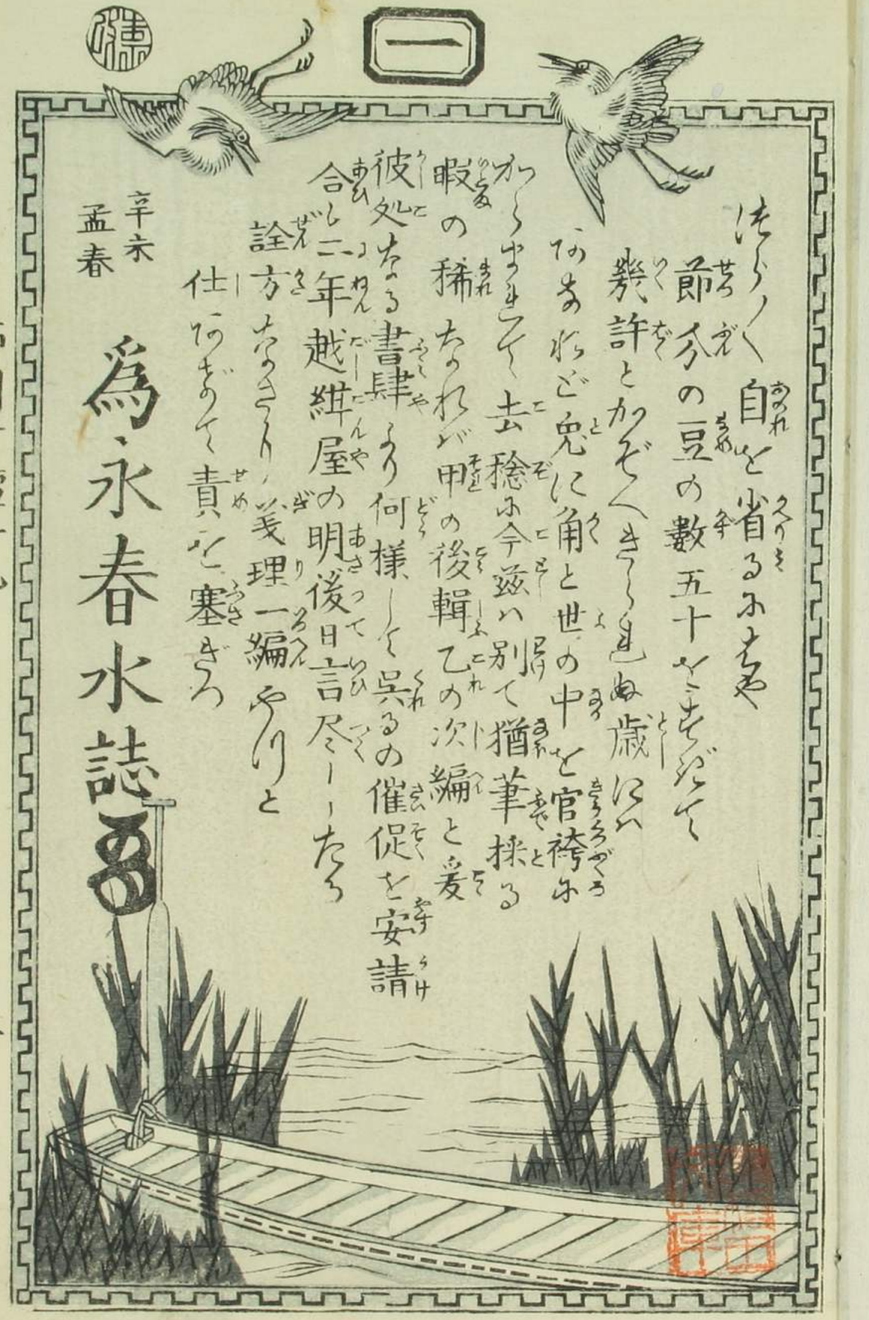
孟斎芳庫画



滿

辛未
孟春

爲永春水誌



自ら省るに古人の節分の豆の數五十七歳に幾許とかぞへきたるまでなのみならず兎に角と世の中を官袴に猶筆採るかつてはつて去稔は今茲は別て猶筆採る暇の稀なれば甲の後輯乙の次編と爰に彼処なる書肆なる何様しても呉るの催促を安請合ひ二年越絆屋の明後日言尽くしたる詮方なきまゝ義理一編やりと仕たのまれて責に塞がる

勇水侍児

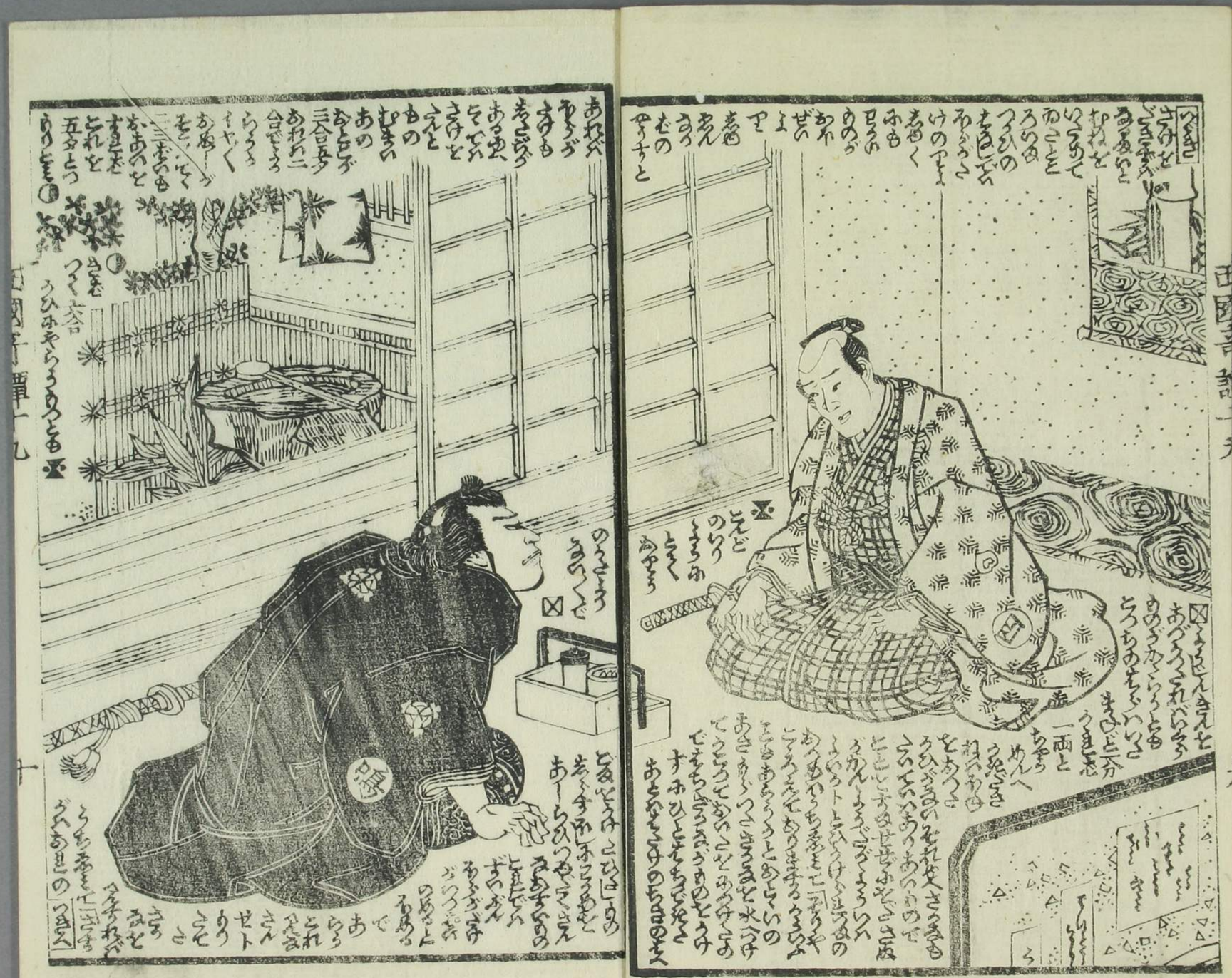
宗重の内室
二の町御前

竜

和

酒
魚
嶽丈
壹
壹
駄

現金酒通



芳虎画　春水作

松飾徳若譚　五編　六編　七編　假名垣魯文作　孟斎芳虎画

今朝春三組盃　初編　二編　三編　山々亭有人補綴　三遊亭圓朝作話　錦朝楼芳虎画図

いろは節要　初編　十編　山々亭有人作　歌川周重画

繪本太豐記　初編　二編　三編　孟齋芳虎画作

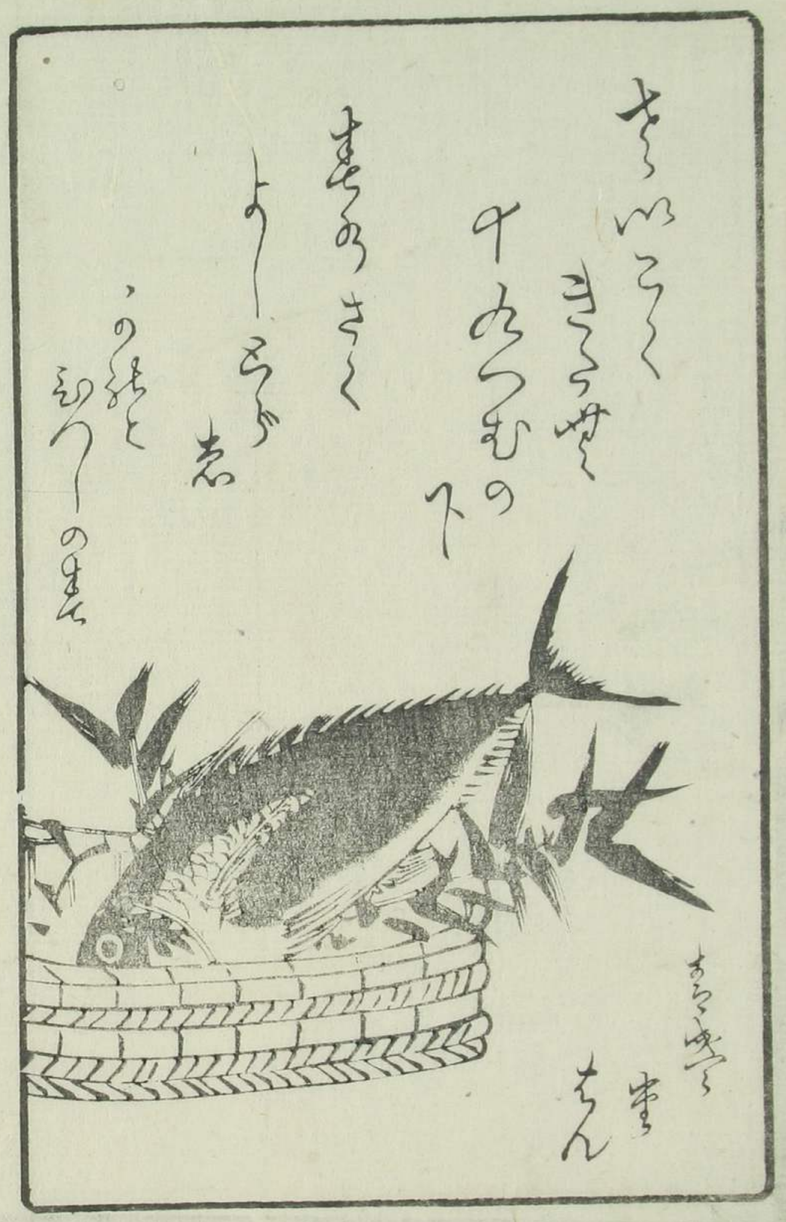
地本問屋　両國廣小路　加賀屋吉兵衛板

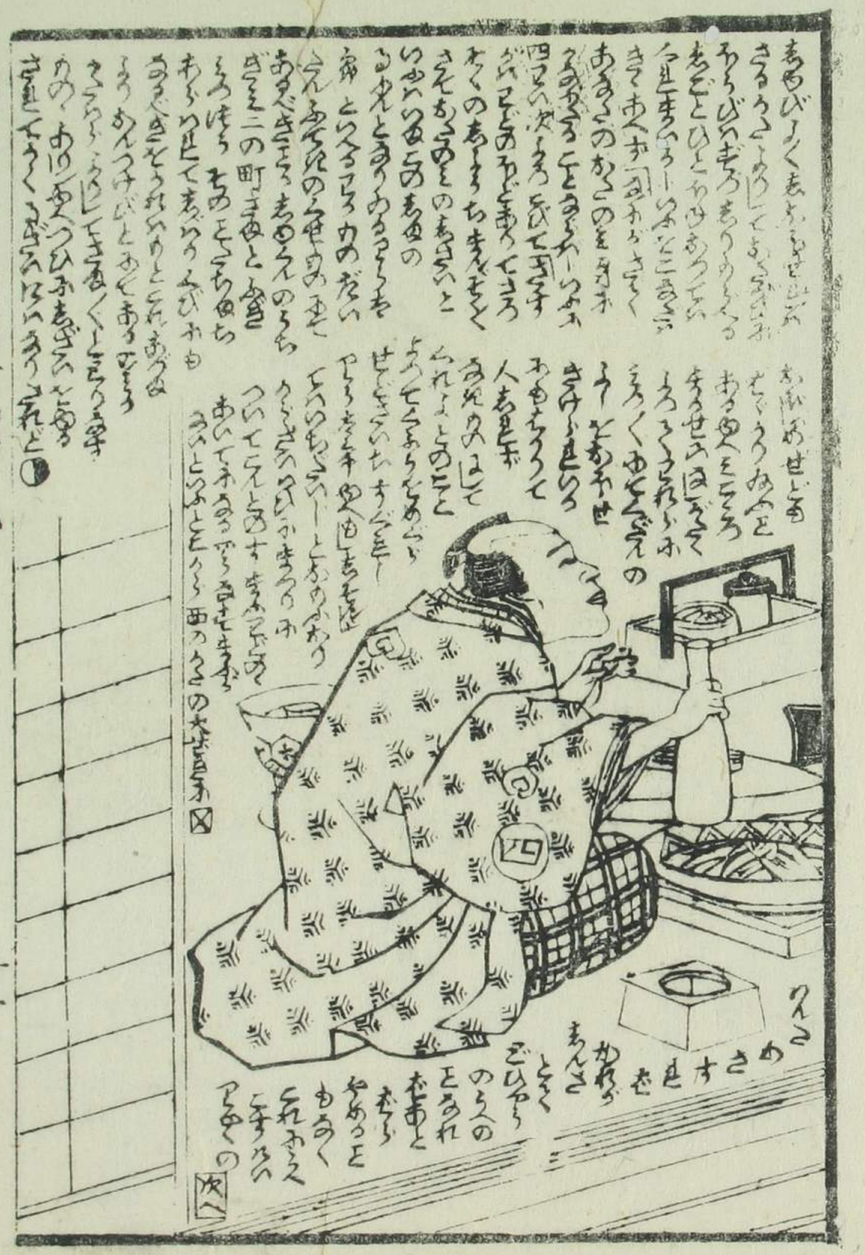
春水綺

芳虎画圖

十九編

下





四
鳴

九

福神

仙家
○此所画のそなへ
後回にいたりて
自と解る

新増補西國奇談　廿編　爲永春水作
　　廿一編　孟齋芳虎画
薄緑娘白浪　九編　假名垣魯文作
　　十編　錦朝樓芳虎画
隅田川月と梅若　五編　柳亭種彦作
　　六編　山々亭有人編次
　　孟斎芳虎画
繪本太閤記　三編　孟齋芳虎画作

地本問屋　両國廣小路　加賀屋吉兵衛板

孟齋芳虎画

為水春水作

廿編上

西國奇談

奇談
第二編 上

著盛文作

畫水作
芳席画

西國奇談第二十編叙

草双紙い基婦幼の玩具入小べ作意ハ三分ふして。画様ハ工みと七分ふ。是ふ仍て文意の足らぬを。画ととして補ふ吏多ろう。且そも画様を工めるや。目先の変るを旨とするまゝ。只管劇場の赴きを摸し。甚しきハ。俳優乃肖像をさへふ加へゝ。稚童の愛を求めゞ。然る彼本傳十九編より。那螺ケ嶽の舵を爭ひ。流人の小屋の住狭状のゝ。うそち続るふ困ゞ果しゞ。仕ゆけゝ出入と今更ふ。作者も引ふ方うゝ。机ふ肩をゆのゝして序也。

明治八年稔一月藁成

爲永春水誌

赤松
妖斎
八重桐

十九へんのつぎ

西國話二

七日の夜れうち
ゆ　かゆとまさる
かとちりとつふゝ
きつゝのへず
おのよるあとも
やとゝ〜
こゝろこゝろ

春水作 芳虎画

松飾德若譚 六編 七編 京伝作 芳虎画

今朝春三組盃 初編 一編 三編 山々亭有人補綴 三遊亭圓朝作話 錦朝楼芳虎画図

いろは節要女 初編 十編 歌川周重画

繪本太豐記 初編 二編 三編 孟齋芳虎画作

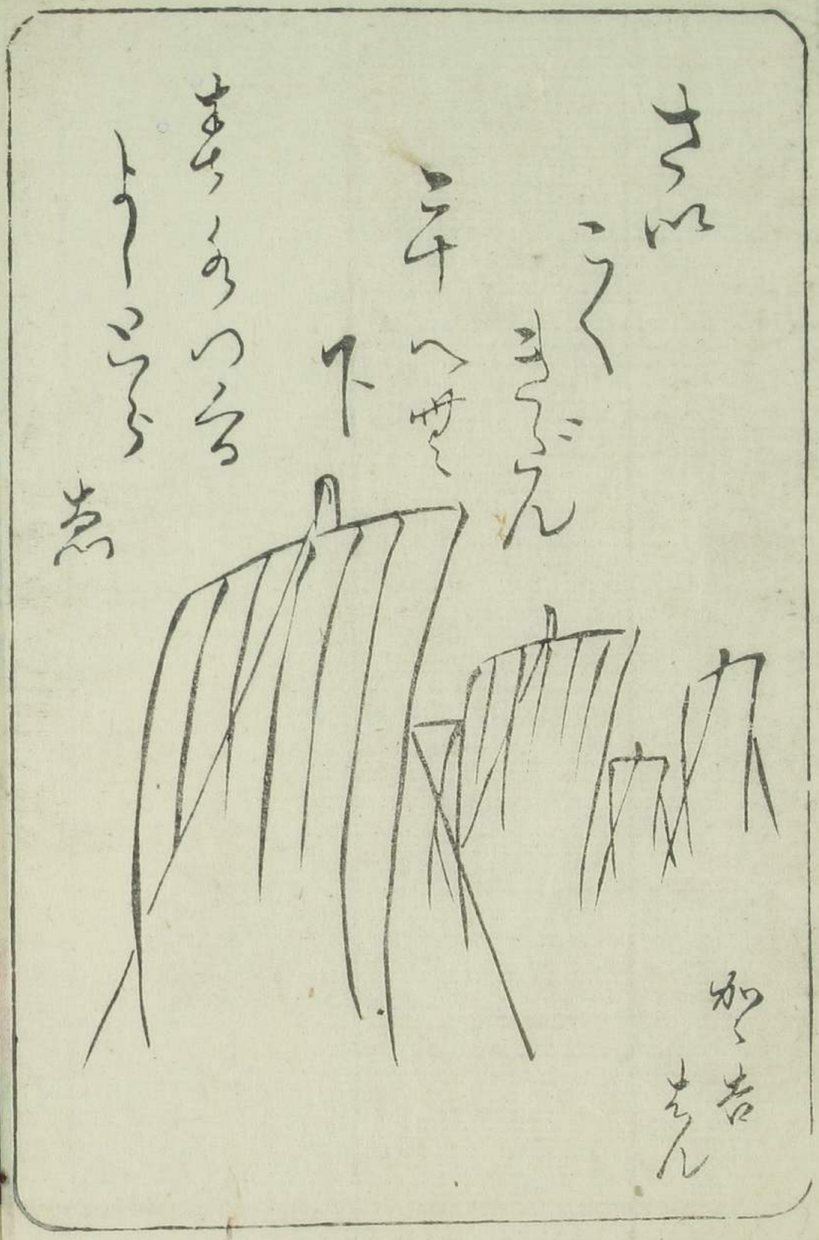
地本問屋 両國廣小路 加賀屋吉兵衛板

西國奇談

竜神螺女殺

廿編下

三
二の巻うき
災厄悪鬼の消除
西國三十番札所

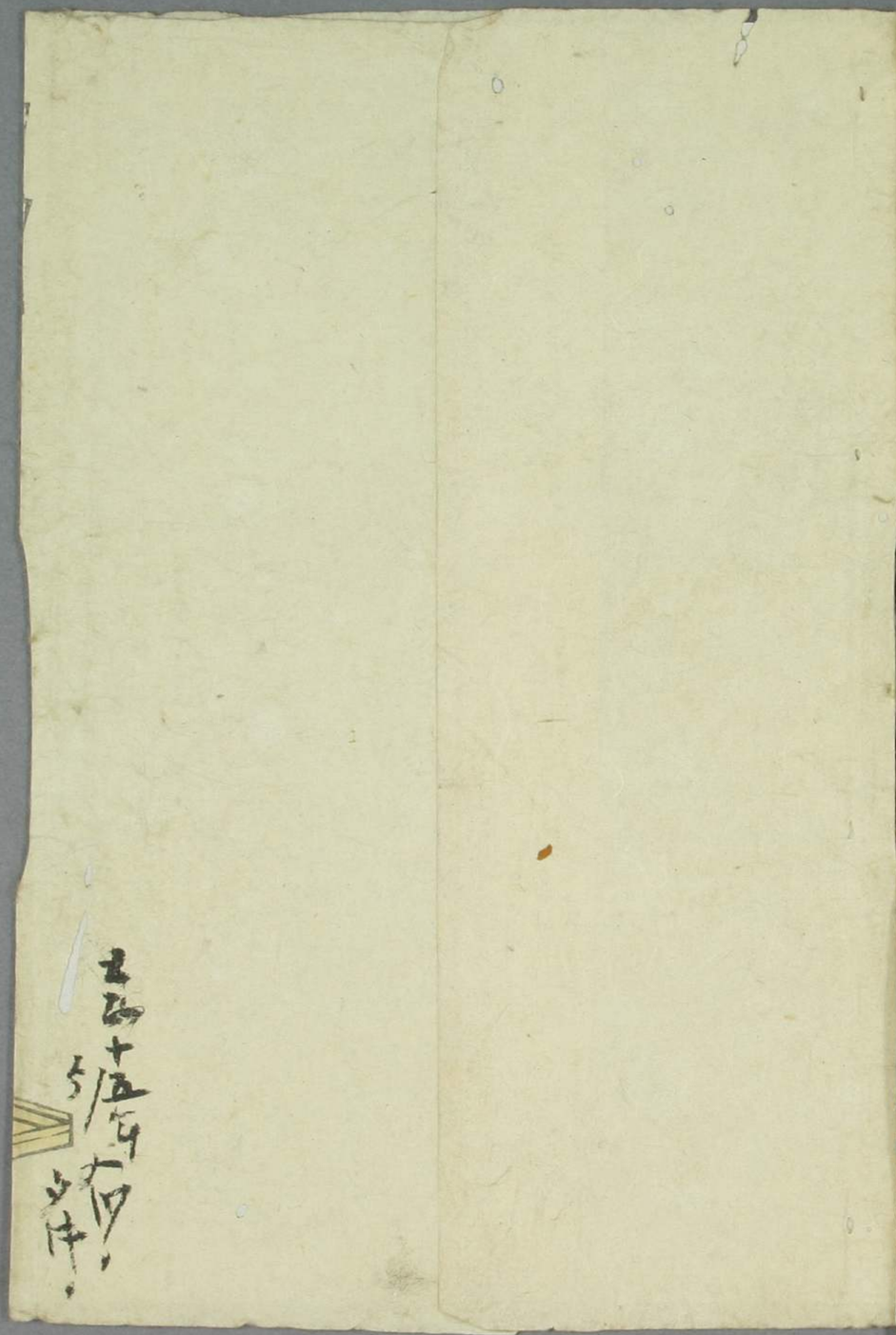


朝鮮牛肉丸 大色・通宝・金・朱・高銀一匁 外一ひいを補ひ多くせのを求ふ粉末それ〳〵よく多くの人考ひらひてまう〳〵 対馬下谷三番地 深寄氏製

春水作 芳虎画

新増補西國奇談 廿編 爲水春水作
廿一編 孟齋芳虎画
薄緑娘白浪 九編 假名垣魯文作
十編 錦朝樓芳虎画
隅田川月と梅若 五編 柳亭種彦作 六編 山亭有人編次 孟齋芳虎画
繪本太閤記 三編 孟齋芳虎画

地本問屋 西國廣小路 加賀屋吉五郎 衛板



爲永春水翁　芳彩画

新編西国巡礼

さいこくきだん

補遺

女編全三冊

加賀壱花